

考えよう、岡山市の明日。

みんなのおかやま

市民のひろばおかやま特集号

2011年10月号

Vol.05

特集 ご存じですか? 「ESD」

ESDを知らないあなたも、ここから始めてみませんか?

04 座談会「ESDとは何か?」を考えてみよう

contents

- 02 「ESD」って何?
- 09 高谷茂男市長インタビュー
「岡山市は今後もESDに
力を入れていきます」
ESDキャッチフレーズ募集
「ESDをひとことであらわすと?」
- 12 前号特集「安全・安心ネット
ワーク」へのご意見紹介
読者アンケート&プレゼント

持続可能な社会に向けて、いち早く取り組んでいます

06 「岡山市で行われているESD活動」

ESDと地域を結ぶ人にインタビュー

10 「地域に根ざしたESD活動に 取り組んでいます」

目指す未来

環境・経済・社会の
バランスが取れた、
10年後、100年後も
誰もが安心して
暮らせる社会

文化の
違いを知って、
外国の人とも
仲よくなりたい

私たちの
食べ物はどこから
来るんだろう？

平和教育

国際理解教育

男女平等教育

消費者教育

食育

ESDは、活動も考え方もとても幅広いものです。しかし、そのひとつひとつはとても身近なもので、もしかしたら皆さんも、すでにその活動に関わっているかもしれません。その活動を、地域から世界にまで広げていくことがESDの取り組みなのです。

ESDと岡山地域

岡山市は、ESDへの取り組みでは先進的な都市。その取り組みのキーワードを紹介します。

「ESDの10年」と「RCE認定」

国連が2005年から2014年までの10年を「ESDの10年」と定め、国際的に実施計画を作成して、日本もそれに取り組んでいます。そして、この計画・目標を達成するための「拠点=RCE」を世界中に増やしている中で、岡山地域は2005年6月に、日本で最初にRCEに認定されたのです。

「岡山ESDプロジェクト」

岡山地域では、2005年4月「岡山ESD推進協議会」の発足とともに、「岡山ESDプロジェクト」がスタート。RCEに認定されていることもあり、特に活動が活発な地域なのです。持続可能な社会をつくる人を育て、ESDの活動や学びに参加できるよう、サポートしています。

目指せ、

国際会議誘致!

岡山市は、2014年に開催される「国連ESDの10年 最終年会合」(※) (ESDの国際会議)の開催候補地に立候補しました。現在、岡山ESD推進協議会を軸に、岡山県、県内外の自治体や経済団体、大学らと「同会議の岡山開催を実現する会」を結成し、岡山・香川地域の関係者が一丸となって、会議の誘致成功を目指して全力で活動を行っています。(平成23年9月15日現在)

※「国連ESDの10年 最終年会合」=ESDについて、世界各国での10年間の取り組みを総括する国際会議。50カ国の閣僚をはじめ、世界150カ国から約1000人が参加する予定。

E S D

ducation for
ustainable
evelopment

「ESD」って何？

「持続可能な開発のための教育」

よりよい「未来をつくる」ためのあらゆる活動を、「ESD」という新しいキーワードのもとにつなぎ、広げていくことを指しています。活動内容も考え方も多岐にわたる「ESD」について紹介します。



人(開発)と自然は
共生できないの？

まちづくり

地球温暖化を
食い止めたい!

環境教育

誰もが公平に
生きられる
社会にしたい

開発教育

人権教育

現状

エネルギー・食料不足が深刻化…。
この地球上で、ずっとみんなが
生きていくにはどうしたらいい？

ESDとは何か

前ページで「ESD」という考え方について紹介しましたが、身近な事柄と結び付けるには、まだよく分からない点も多いのでは？
そこで、ESDをよく知らない学生や主婦の人と、ESD活動に携わる人とで、あらためて「ESDとは何か」について考えました。

を
考えてみよう!

身近なこと、世界のことを目を向けて考える

まずは、身近な問題を例として、ESDとはどんなものなのかを考えていきましょう。

阿部 昔に比べ、現代では一家1台の車があつて、各部屋にテレビやエアコンがあるなど、私たちはエネルギーを大量に使っています。生活がぜいたくになったことが、地球温暖化などの環境問題を引き起こしているのです。

井塚 私は時々、食べ物を残すことがあります…。

阿部 日本人が捨てる食べ物を金額に換算すると、日本の農林水産業生産額と同じくらいになるそうですよ。

吉田 このままの生活を続けると、人間が生き残っていけないほど環境悪化が進んでしまうのですか？

川田 鉄や石油などの地下資源には限りがあるのに、現代人は使いたい放題。今はそれでいいかもしれませんが、子孫のためには「持続可能な社会」づくりに取り組むことが必要なのです。

ESDにおいて大切なことは、まず環境や人権、平和など世界にどん

な問題があるのかを知ること。そして、自分とどう関係があるのかを考えてみましょう。例えば、発展途上国の貧困問題では、私たちが安い商品を求めるほど、それを作る途上国の人たちは低賃金で働かなければならないという状況があります。自分と世界の関わりが気付くと、こうすれば世界はもっとよくなるということが分かってきますよ。

田代 私たちのボランティア活動では、子どもたちに年間を通して「知る、関わる、変わる」ことを教えています。知ることに次に、誰かと関わって自分が行動を起こしたときに初めて理解できる。そして、行動が変われば「循環」ができる。「食事は残さず食べよう」など、身近な問題として取り組めますよね。

杉本 ESDは、継続して取り組むというプロセスが大事なんですね。

川田 そして、一緒に体験することが大切。人との関わりの中で、新しい世界が開かれていくはずですよ。

いつでもどこでも誰でもできる。小さなことから活動を
——では、ESDでは具体的に何をすればいいのでしょうか？

川田 私は南区・藤田地区の小・中・高校と連携して「藤田の農業の未来」をテーマにしたESDに関わっています。

この子どもたちは、私たちの生活の中で維持されている自然の素晴らしさを体験し、それが実感として

田代 他人から言われるのではなく、自分でこれをやろうと思う「自主的な活動」。

内藤 自分のことだけでなく、周りのことを考えて「つながる」こと。——では、みなさん、どんな未来にしたいかと思いませんか？

吉田 太陽光発電などの自然エネルギーがもっと使われるようになればいいなと思います。

井塚 地域ぐるみで子どもの成長を見守る社会になってほしいです。

杉本 子どもたちが今後、進学や就職で地元を離れても、育った場所へ帰ってきたくなるような居心地のいい地域づくりができればいいですね。

川田 吉田くんは「自然に優しい社会」、井塚さんや杉本さんは「人に優しい社会」。どちらも「安心して暮らせる社会」につながりますね。

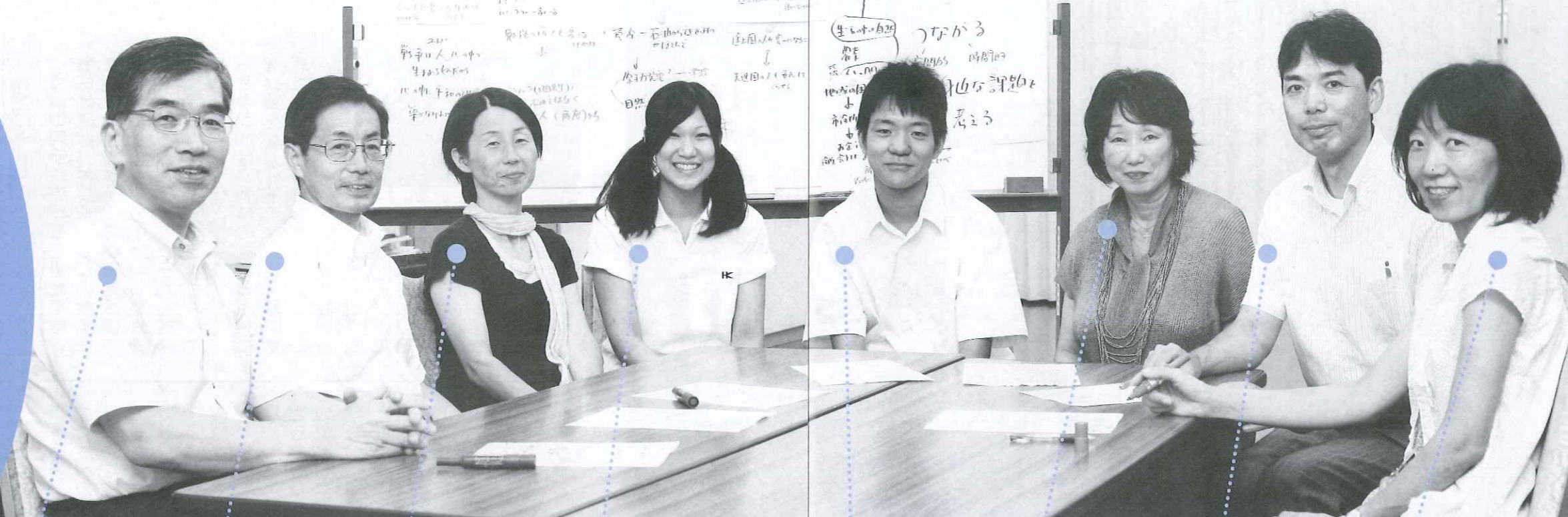
阿部 無関心であることをなくし、人や自然などいろんなことに対する「思いやり」を広げなければ。

内藤 思いやりを持ちながら、世界のいろんな地域の人たちと理解し合うことが大切ですよ。

——ESDの概念って大きいですね。

川田 ESDは「ハーモニー」なんです。一人ひとりがおのおのの音を出し、全体としてまとまり、ハーモニーとなって響き合う。そのためにはやはり「つながり」が必要。誰でも演奏家になれるんですよ。

——地球上のみんながESDのプレイヤー——ということなんですね。



阿部 宏史さん
岡山大学副学長。
2007年に同大学がユネスコチャータ（ユネスコ講座）設置の認証を受けたときからESDに携わる。

内藤 元久
岡山市環境局統括審議監。岡山ESD推進協議会事務局。30年間、環境保全事業に携わる。

杉本 恭子さん
NPO法人岡山市子どもセンターにて活動中。地域の子どもの居場所づくりに取り組む。今回は主婦代表として参加。3児の母。

井塚 詩穂さん
岡山市内の子ども会でも子どもたちの活動を支援する、ジュニアリーダーズクラブ会長。明誠学院高等学校2年。

吉田 侑生さん
ジュニアリーダーズクラブ副会長。県立岡山工業高等学校1年。今回、若者代表として井塚さんとともに参加。

田代 邦子さん
NPO法人ハート・オブ・ゴールド事務局長。スポーツを通じた国際的なボランティア活動を展開している。

川田 力さん
岡山大学大学院教育学研究科准教授。大学のほか、岡山市内の小・中学校へもESDの普及活動に取り組んでいる。

原 明子
岡山市環境保全課（岡山ESD推進協議会事務局）副主査。今回の司会進行。

一人一人ができることを、できる範囲で続けていくこと。例えて言えば、誰もが演奏者（プレイヤー）で、その奏でるメロディが「ハーモニー」となって世界中へ広がっていく、それがESDなのです。